

●全国学力学習状況調査(中3)

課題の見られた問題の概要	結果
複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く	29%
語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	44%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
事柄や心情が効果的に伝わるように、描写を工夫して書く力。	31.00%
小学6年生までの学習漢字について、正しく読むことができる力。	(43.7%)
読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、課題を解決す力。	50.60%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
学力調査では問題をよく理解して解答している。3年は語句の意味を問う問題1題以外は都・全国の平均を上回っていた。2年も同様。	とくに副詞周辺の語彙量の拡充を目指させるとともに、名文の視写を通して実際の用法へと役立てさせる。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
どの学年も真面目な態度で授業に取り組んでいる生徒が多い。個人差はあるが、授業の課題にしっかり取り組んで力を伸ばしている。	授業の課題に真面目に取り組み、力を伸ばしている生徒が多いが、基礎学力が定着していない生徒も見られ、時間をかけた指導が必要である。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	思考や活動をしやすい落ち着いた環境を自ら作り出すことのできる基本的な姿勢を持っている。聞き取りテストで明確になったのは比較しながら・抽象化をしながら・詳細を聞きとることが苦手である。また、主語・述語にねじれのある文を書く生徒が少なくない。	メモが記入できるような本文プリントを用意する。またメモの箇所が明確になるような括弧や記号を多用する。漠然と聞かないようなノート(プリント)の工夫をする。同時にアンダーラインの種類などに細かな指示を出す機会を増やす。短文で有ればねじれを明確にしやすいため長い文章を書くよりは短文を数多く書くようにする。
2年生	語彙量や一般的な比喻表現などの基礎的な知識が少ないため、表現が平板になってしまう生徒が少なくない。1年次の課題だったメモをとりながら授業を受けることができるようになってきたが、自らの言葉で話す場面になると、短い時間で話す内容を組み立てて発表することが苦	ディベートやスピーチなどを取り入れると同時に、50文字程度の短い文章を書く機会を今まで以上に増やしていく。意味調べなど、あまり時間をかけていなかった部分に短文作成などの作業を加えることで、語彙量を増やし表現力をつけていく。
3年生	前向きに取り組む姿勢が確立されつつあるが、課題発見型の授業になると、参加意欲に大きく差の表れる場面がある。200字程度の作文に対する経験がやや不足している。文学的文章・説明的文章ともに基本的な読み取り方のポイントの確認をしながら	・書く力を伸ばしていくため、2学期は短作文を書く演習を実施していく。 ・教材ごとに3年間の学習のまとめをする時間を作り、学習内容を確認していく。

●学校全体で取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を読む力、書く力をつける。 ・国語の学習を通じて語彙力を伸ばす。 ・文章の内容を読み取る力を育てる。 ・自分の考えを相手に伝える力(話す、書く)、また話し手の意図を聞き取る力をつける。
--

gt